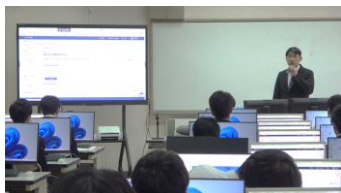


リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した公開授業・授業研究の実施

「生成AI×EdTech×ICT」をテーマに旅行サイトを作成する「Webデザイン」の公開授業・授業研究を行う。県内の公立高校の教職員、大学、民間企業、本校職員の延べ51人が参加した。その後、授業研究を行い、本校での取組事例発表、意見交換等を行った。



EdTech教材を使った前時の復習



協働的な学び

生徒が各グループ毎に考えた旅行プランを共有し、他者参照を行う。そして生成AIを使って旅行日程等を作成する



旅行プランをPDF化し、生成AIを活用したカスタムAIモデル作成ツールを使い、オリジナルChatBotを作成し、質問することでファクトチェックを行う

個別最適な学び

活動1 VRゴーグル&ハイスペックPCで疑似体験



疑似旅行体験でプランをよりブラッシュアップする

活動2 画像生成AIでWEB素材生成



プロンプトを工夫することでより生徒が個々に考える理根に近い画像生成を行う

活動3 EdTech教材を使った復習



Webページ制作手法に不安がある生徒は復習を行い、必要に応じて他の活動へ移行する

【指導の際に留意したこと】
生徒は個別で今の自分に必要な活動を主体的に行う。また意見や感想などを他者と共有するためにリアルタイムQ&Aツールを常に掲示している。



個別最適な学び

活動4 Webページの制作



事前に配布したテーマ設定シートをもとに製作する

1 作成したサイトのURLをコピーし二次元コードを作成させる。



2 オンラインプレゼンテーションツールに二次元コードを掲載し、相互評価を行う。ただし、生徒名が分からないように配慮する。

協働的な学び

(例)大阪旅行プラン



リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】「情報活用能力調査」の実施

1. 調査の概要

この調査は、兵庫教育大学の研究紀要（第57巻 2020年9月 pp.65-75, 「高校生のICTに対する苦手意識と情報活用実践力および自己効力感との関連性」）を参考に、アンケート機能を用いて生徒の情報活用能力を評価し、指導に活用するためのもので、成績には関係なく、生徒が自身の情報活用や実践について率直に回答する形式（質問数101問）となっている。

2. 調査結果の分析

調査結果は、以下の4段階評価で示されている。

4：とてもあてはまる 3：少しあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない
具体的な調査項目や結果の概要は次項に記載されているが、ここでは主な傾向と考察を示す。

3. 主な傾向

情報の信頼性判断: 多くの生徒が情報の信頼性を判断する能力について「とてもあてはまる」または「少しあてはまる」と回答しており、情報リテラシー教育の効果が見られる。

デジタルツールの活用: 生徒の多くがデジタルツールを活用して情報を収集・分析する能力について高い評価をしている。これは、授業でのICT活用が進んでいることを示している。

自主学習の意欲: 自主的に学習する意欲についても高い評価が見られ、生徒が積極的に情報を活用して学習していることが伺える。

4. 考察

教育の効果: 調査結果から、情報リテラシー教育やICT活用の取り組みが生徒の情報活用能力向上に寄与していることが確認された。特に、情報の信頼性を判断する能力やデジタルツールの活用能力が向上している点は、今後の教育活動においても重要な成果である。

課題と改善点: 全ての生徒が高い評価をしているわけではなく、一部の生徒に対してはさらなる支援が必要である。特に、情報の信頼性判断やデジタルツールの活用において「あまりあてはまらない」や「まったくあてはまらない」と回答した生徒に対しては、個別の指導やサポートが求められる。

今後の取り組みと対応について: 今後も継続的に情報リテラシー教育を強化し、全ての生徒が高い情報活用能力を身につけられるよう、教育内容の充実と教員の研修を進めていく必要があると共通理解を図った。また、生徒の自主学習を支援するためのオンライン教材や学習アプリの充実も重要と考えている。

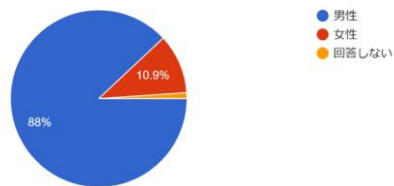
リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

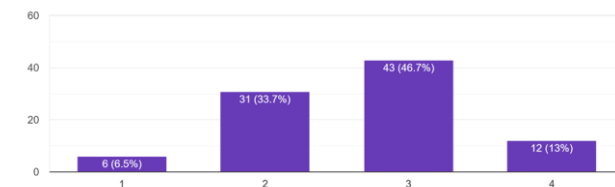
【取組内容】「情報活用能力調査」の実施

質問内容と結果（一部抜粋）

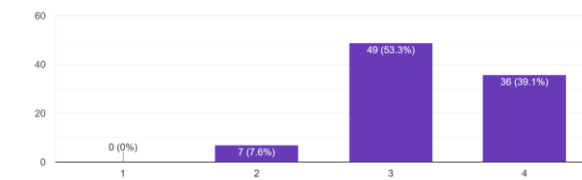
性別を教えてください。回答したくない場合は「回答しない」を選択してください。
92件の回答



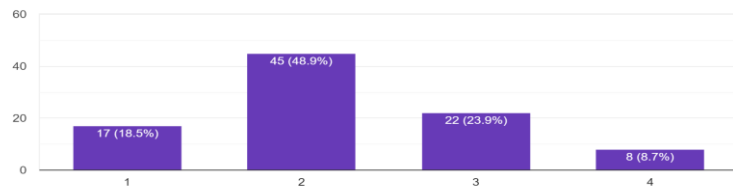
(6) 制作した作品は、友達やクラスの人々に認めてもらえると思う。
92件の回答



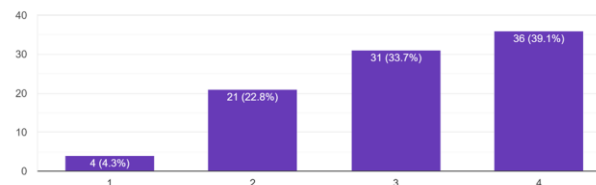
(7) 課題を解決するために、先生の話をしっかり聞いたり、プリントをしっかり読むようにしている。
92件の回答



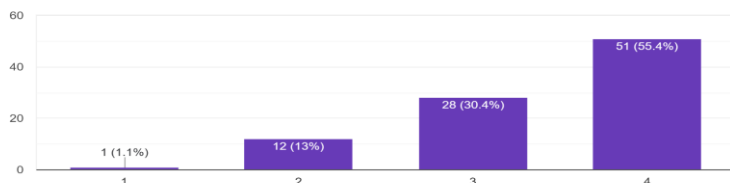
(16) 課題に取り組んでいるときに、失敗するとよけいにやる気がわいてくる。
92件の回答



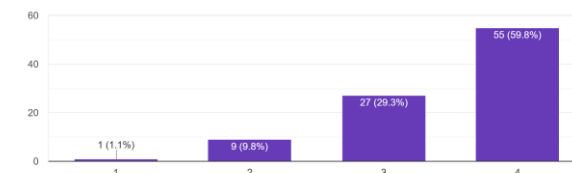
(20) 家族や友人等にパソコンの操作について教えてあげられるようになりたい。
92件の回答



(26) 学習したことを将来の生活に役立てられるようになりたい。
92件の回答



(35) 自分でコンピュータやインターネットを使うときは情報モラルを守れる人になりたいと思う。
92件の回答



選択肢の凡例

- 4：とてもあてはまる
- 3：少しあてはまる
- 2：あまりあてはまらない
- 1：まったくあてはまらない

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 病欠等による長欠者への授業支援

病気等の本人の責任によらない事由により教室での授業が受けられない生徒への支援方法としてオンラインでの授業支援を行っている。



事前に時間割を担当が配布する。生徒はタブレットとモバイルルーター（学校貸与）の使用方法等の事前指導を行う。

生徒は毎日、授業を受けられるか連絡（Webチャット等）し、学級担任から教科担任へ共有する。

1125月 本日もよろしくお願ひします。
 1限公共 欠席
 2限財務 欠席
 3限ソ活 オンライン授業
 4限LHR オンライン授業
 5限数A オンライン授業
 6限保健 欠席

教科担任による授業の配信。

課題提出および授業の取組状況については教科担任からフィードバックを行う

先週の事前レポート確認しました。
とても丁寧に取り組んでいましたね。

今日の数学Aの授業では、
 ・ 考査に向けた学習の進め方（考査範囲の説明）
 ・ 事前レポート
 を扱いました。
 学習の進め方については、ロイロで動画を送ったので「送る」から確認をしてください。
 事前レポートはノート1ページにまとめて、提出箱「考査前学習&質問箱」に提出してください。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 出前授業（小学校）での情報活用人材の育成

授業で身につけた I C T 技術（プログラミング）を地域に還元する活動を行っている。1 年間のスケジュールは以下の通り。

4 月～7 月

- スクラッチ言語の研究
- スクラッチゲーム作成

自分たちでスライド等も準備する。
班に分かれて、工夫を凝らしわかりやすいスライド作成に努めた。

7 月～11 月

- 教材研究
- 教材準備

お寿司屋さん



ご飯をにぎる

魚をのせる

さらにのせる

完成

12 月

- 出前授業
- 出前授業報告書作成

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 出前授業（小学校）での情報活用人材の育成

令和6年12月に行われた授業風景



3人1組で、15名程度の小学生にプログラミングの授業を行った。
小学生は1人1台タブレットを使用し、プログラミング用アプリを使用して授業を展開した。

電子黒板やプロジェクトタなどを使用して、わかりやすい授業展開を心がけた。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 EdTech教材の活用

鹿児島市が教育教材提供機関との提携を受け、本年度からEdTech教材を情報Ⅰで活用した。

EdTech教材とは、教育（Education）とテクノロジー（Technology）を組み合わせた言葉である「EdTech」を活用した教材である。従来の教科書やプリント教材とは異なり、コンピューターやスマートフォンなどのデジタルデバイスを使って、よりインタラクティブ（双方向性）で、個人に合わせた学習を可能にする。

EdTech教材の特徴

- **インタラクティブ性:** 映像、音声、アニメーションなどを活用し、単にスライドを読むだけでなく、クイズに答えたり、シミュレーションやワークショップを体験したりすることで、より深く理解を深めることが期待できる。
- **個別最適化:** 各生徒の学習進度や理解度に合わせて、問題の難易度や学習内容を自動で調整できるため、一人ひとりが自分のペースで学習を進めることができる。
- **多様な学習スタイルに対応:** 映像を見る、ゲームをする、プログラミングをするなど、様々な学習スタイルに対応した教材が豊富にあり、自分の興味関心に合った学び方を選ぶことができる。
- **時間や場所を選ばない学習:** スマートフォンやタブレットがあれば、いつでもどこでも学習することが可能である。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 EdTech教材の活用

【授業の実際】

授業スライドを使い、以下のような授業展開を行っている

導入

動機付けのための
発問をし、取り扱
う内容の導入をす
る。

 考えてみよう

私たちの生活の中で・・・

インターネットにつながることで
できるようになったことは？

展開

学習範囲を示し、
レッスンを実施する。



レッスンを始めよう

授業の範囲

第1章

情報社会と私たち

第1章 情報社会と私たち

1節1

情報社会と情報

まとめ

発問に対する解説や学
習内容のまとめを行う。



レッスンの内容を振り返ろう

情報社会

コンピュータやスマートフォン、インターネットの普及によって、世界中がネットワークで繋がっている社会

ビッグデータ

情報技術の進歩によって生まれた「膨大なデータ」

超スマート社会

ロボットやAIを活用する社会

Society5.0

Society4.0の次の未来社会
私たちはより良い社会を目指して、進化し続けている

生徒は理解度に合わせて進度（単元の予習・復習）を決めることができる。単元テストやワークショップの機能もあり、職員は生徒の評価へ利活用している。